

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	0171100308		
法人名	有限会社 アクティサービス		
事業所名	グループホーム 向陽台		
所在地	千歳市白樺2丁目1番1号 (電話) 0123-28-5888		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月18日	評価確定日	平成22年1月12日

【情報提供票より】(21年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	11月	15日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	14人、	非常勤 2人、 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り			
	4階建ての	3 ~ 4	階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000	円	その他の経費(月額)	光熱水費:25,000円 暖房費:13,000円(11~3月)
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)		有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	5	名	要介護2	3	名	
要介護3	2	名	要介護4	6	名	
要介護5	1	名	要支援2	1	名	
年齢	平均	79 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団いずみ会 北星病院・佑愛歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

元女子寮をリフォームした事業所で各居室には収納家具が備え付けられ、共用のスペースも充分確保され、トイレや洗面所も数多くあり利用者にとって居心地の良い場所になっている。介護度の高い利用者には職員が細かく介助をし、自立へ向けて支援をしている。ユニットの他に併設の建物にある和室やテラス、多目的な部屋などの有効活用によって暮らしに広がりがあり、映画会など、特に冬期間は外出に代わる利用者の楽しみになっている。市内のグループホームが手をつなぎ、職員研修や利用者参加の運動会など同業者との交流が開始されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の重度化や終末期に向けた方針の共有は運用面で継続の改善項目とした。日常的な外出支援は個別も含めて努力が見られる。運営者と管理者そして職員の前向きな取り組みを評価し、更なる努力を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については全員で各項目に記載する方法で最後に介護計画作成者がまとめて完成し、職員は確認をした。項目の中には理解に困難な箇所もあり、統一見解が必要な点があった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域代表者や利用者・家族・地域包括など幅広い出席者で、2ヶ月毎に開催されている。会議での意見は検討課題として職員で話し合い、サービスの向上につなげている。議事録も整備されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月家族に広報紙と個別のお便りを送付し利用者の状況を知らせている。意見箱も設置しているが、大半は家族の来訪時に職員との会話で意見を求め運営に活かせる体制を作っている。また、運営推進会議での意見も汲み取っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の乳幼児と高齢者の交わりの場である「ハッピー広場」や夏祭りに参加している。近隣中学校の職業体験の場として交流が継続的にあり、利用者の楽しみとなっている。地域の会館には事業所発行の地域向けの広報紙の掲示もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に3つの基本理念を作り上げ、地域の中で人として尊厳され、心を大切にするケアを理念の内容としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日常的に理念を確認し、それぞれが具体化することを常時念頭においてケアにあたっている。また、玄関と居間、職員室など目に付く場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、事業所の周辺は住宅団地であるが近隣との関わりは少ない。しかし、地域の乳幼児と高齢者の「ハッピー広場」や夏祭りに参加したり、近隣中学校の職業体験の場として交流があり、日常的に良好な関係作りがなされている。地域の会館に事業所便りの掲示もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で評価の意義を学び、自己評価については全員で各項目について記載する方法で計画作成者がまとめて完成し、職員が確認をした。毎年、外部評価を受け、自由に閲覧できるように玄関にファイルしている。前回の改善項目への取り組みは改善に向けて努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は幅広い出席者で2ヶ月毎定期的開催されている。会議での意見は検討課題として職員で話し合い、サービスの向上につなげている。議事録も整備されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所のケースワーカーなど関係者が来訪したり、出向いて相談したり、相互に情報交換を行い利用者の生活を支援している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月広報紙を写真入りで作成し家族に知らせている。さらに、担当職員が利用者ごとの様子を手書きで写真に添えたり、金銭の報告など詳細に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時や運営推進会議での意見などを汲み取って運営に活かせる体制を作っている。なお、契約時に外部の苦情申出機関についても説明している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職をなくすよう日常的に努力している。止むを得ずの場合は引き継ぎを丁寧にし、利用者に影響がでないように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員を対象にした内部研修は年2回開催したが、外部研修の復習がテーマであった。外部研修への参加は少ない。新任研修は即実践にポイントがあり、十分な時間がとれない場合がある。</p>		<p>事業所としての課題をテーマに内部研修の充実が望まれる。さらに、職員の資質の向上を目指すことに期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア会議や市内のグループホームで「絆の会」を発足させ、合同の職員研修や利用者参加の運動会など同業者との交流が活発になった。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>在宅や病院から入所となる過程で、本人と家族が事前に見学や話し合いなど細かく打ち合わせをして、不安のないように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は人生の先輩である利用者から多くのことを学び、喜怒哀楽をともにし支え合う関係を築いている。ユニット会議では利用者との対応について話し合っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は利用者と多くの時間を関わることで、思いやどんな暮らしを望むか、一人ひとり個別に捕らえることに努力をしている。会話の少ない利用者からは家族との接点を考慮し検討している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	家族、関係者からの情報を基に居室担当者が原案を作成しカンファレンスに諮り、会議には本人・家族も参加することがある。協議の中で本人・家族の意向を取り入れ、計画作成者が中心になって介護計画を完成させ、その内容を本人・家族に確認し了解を得ている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画は介護記録、連絡ノートなどの情報も参考に3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に更新計画を作成している。カンファレンスではニーズの変更や本人・家族の意向を追加し、現状に即した介護内容に見直している。転倒、退院時、体調の変化などが生じた場合は、その都度、新たな計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	家族の事情に応じて通院介助を行い、個人の要望に沿って以前から利用していた美容室や友人宅への外出支援など、送迎も含めて柔軟に対応している。また、別フロアにあるホームシアタースクリーンを有効に活用し、映画を鑑賞するなどの楽しみを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、協力病院の往診はあるが、入居時に受診先の希望を聞いている。以前から継続しているかかりつけ医の受診には事業所が通院介助を支援している。受診時に利用者の状態を報告し、病院からもFAXで診療情報があり、必要な時は家族に診療の結果を報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医から家族に説明がある時には事業所も参加し今後の方針について話し合っている。重度化が進み医療行為が主になってきた場合は事業所での生活が困難であることを伝えている。終末期に対しての事業所方針を文章化しているが運用までに至っていない。		現在入居中、また今後の入居時には、事業所の方針を文書で交わすことも視野に入れ、運用の実施に期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の申し送り時は利用者に聞こえないように注意を払っている。利用者を敬う姿勢で対応し、普段の言葉遣いや排泄時にもプライバシーに配慮した声かけをしている。職員間でも排泄などの言葉に気を付けて情報を交換している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつの時間など大まかな決まりはあるが、個別ケアを重要視し、一人ひとりの生活リズムに合わせて対応している。外食や買い物など個人の要望に沿って支援しているが、家族・知人の協力を得ながら少しでも多く希望に沿えるように対応したいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者に食べたいものを聞き、誕生日には本人の好みのものを取り入れ、ユニットごとに献立を作っている。利用者のできることを引き出し、盛り付け、サラダの混ぜ合わせ、サンドイッチ作りなどを一緒に行っている。食事介助には時間をかけ食べる意欲を大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後から毎日入浴ができる体制で利用者の希望を聞きながら支援に努めている。入浴を嫌がる利用者には工夫しながら入浴を実施しているが、難しい時は足浴や清拭を行い清潔に配慮している。利用者の重度化から浴室への段差や浴槽が深いなどのハード面で十分とはいえない。		寮を改造したことで難しい面もあるが、段差解消の工夫などできる範囲内で安心して入浴が楽しめるような環境作りを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者が役割を持つことで達成感が得られるように場面作りをしている。利用者は調理の手伝い、居室の掃除、カレンダーめくり、タオル畳み、畑作りや花植えなどに参加している。事業所中庭での焼き肉パーティーや外で昼食会を楽しみ、別フロアで映画を観て楽しむなどの気晴らしをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には天候を見て、ホームの中庭やバルコニーに出てほぼ毎日のように外気浴を行っている。食材の買い物に利用者も一緒に行ったり、外食やドライブを楽しみ、車椅子利用者も介護タクシーなどを使用し出かけるようにしている。家族の協力を得て本人の希望に沿い外出を増やしたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、1階の玄関は防犯のためオートロックにしているが、中から開けることはできる。事業所は3、4階にあり、玄関のチャイムをスタッフルームで感知し、エレベーターの音で出入りが察知できる。1階の事務所にも職員がいるので連携しながら安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練行程表を作成し、消防署の協力の下で2回避難訓練を実施している。利用者も参加して夜間を想定した避難方法を確認している。職員の半数が地域に居住しており、災害時には地元の協力が得られるように運営推進会議を通して話し合い緊急災害時に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個人ファイルに記録し、十分な水分摂取に、キザミ食、とろみ、ペースト食など個人の状態に合わせて支援している。系列施設の管理栄養士に献立表をチェックしてもらい、栄養バランスに配慮した食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寮を改造した共用空間は広く廊下幅もあり、トイレ、洗面台が数多く配置されており、清潔に整頓されている。居間は日当たりが良く、ソファが幾つか配置され、自由に過ごせるように配慮されている。居間には時計、日めくり、月の行事内容を知らせる表や利用者と一緒に作った貼り絵、マカロニリースなどが程良く飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	女子寮で備え付けていた家具類をそのまま使用し、ソファを配置してゆったりと過ごせる十分な広さがある。タンス、テーブル、テレビ、ソファ、仏壇などが持ち込まれ、家族の写真や好きな動物の写真、装飾物などその人らしい居室作りがなされ、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。